

三心を磨く

学校だより NO. 47 (最終号)

平成30年 3月15日 (木) 発行
須坂市立東中学校

文責：金井 勝久 (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

平成29年度 3学期終業式 校長講話

目標達成のための基準は『準備にベストを尽くしたか』

47日間の3学期が終わります。1年の中でも、大変に短い学期でした。しかし、この僅かな日々の学校生活が、みなさんにとっても、東中学校にとっても、どんなに大切なものであったかは言うまでもありません。3学期の始業式の折に、私はみなさんに、3学期は次のステージへ上るための準備をする学期、つまり、「次のステージの0学期」だと話をしました。あと2週間で、一年生は二年生に、二年生は三年生になります。三年生は、9か年間の義務教育を終え、次の展開となります。どうでしょうか。自分を振り返って準備にベストを尽くせましたか。代表の3名のみなさんの発表からは、自分なりに努力をした跡がうかがうことができ、嬉しく思いました。

2月に、ピョンチャンオリンピックが開催されました。みなさんも日本選手の活躍に、テレビの前で大きな声援を送ったことと思います。NHKのオリンピック中継で、ナビゲーターを務めていたのが、オリンピック5大会に出場した、女子フリースタイル、モーグルの選手であった上村愛子さんです。彼女は、長野オリンピックで7位、ソルトレイクで6位、トリノで5位、バンクーバーで4位、そして前回のソチで4位でした。何度も何度もメダルに挑戦し、一つずつ一つずつ順位を上げていきましたが、残念ながら、オリンピックのメダルを手にすることはできませんでした。

4度目のオリンピックであったバンクーバーオリンピックを4位で終えた彼女が、大会終了後、次のようなブログを綴っています。

どうして、どうして？ こんなにも沢山の人が私を支えてくれるのに。

なんで、私は結果を残せないんだろう。

メダルはいつも、もうちょっとのところで届かない。

今、こうやって文字にしながらかも考えてしまいます。

答えのない答えは、考えない方がいいのか。もしくは、開き直ったら楽になれるのか。

昨日の夜は、色んなことを考え、眠れませんでした。

オリンピックを夢見て オリンピックでのメダルを夢見てずっと戦い続けてきました。毎年、毎日、新しい考え方や新しい行動。色んな自分を発見してきました。

自分のこうありたいと思う通りの自分。自分の嫌いな自分。成功した時の喜び。

失敗した時の悔しさ、悲しさ。心が折れる時。また立ち向かう時。

色んな自分と向き合い、スキーの技術の成長と同じように自分自身を成長させることができました。

オリンピックのメダルをとることは、自分自身に課せていた責任でした。

周りの方からの大きな支援とご協力。それにお返しができるのは、やはり結果が全てだと、今も思います。

(中略) 私には、大きなプロジェクトを大成功に治める力は少し足りなかったけれど、そのための準備は万全だったし、私たちの技術が世界一なんだ！ と胸を張って滑ったことは確かです。

日本には「がんばれば何とかなる。」「努力すれば必ず結果がついてくる。」というニュアンスの、努力と成果はセットであるかのような教訓的な言葉がいくつかあります。しかし、どんなに努力しても、どんなにがんばっても達成できないことなんて、いくらでもあります。上村選手のブログを

読んでいて感じたことは、目標達成のための基準は『準備にベストを尽くしたか』この一点に尽きると思います。メダルという名の目標は達成できなくても、自らの競技人生をかけて必死の努力をし続けたことに、賞賛を贈らない人はいません。上村選手はソチ大会終了後20数年間の選手生活を閉じます。メダル一歩寸前まで行ったことに対して、多くの賞賛の声が寄せられたことは言うまでもありません。準備と努力と成果とは必ずしも一致しませんが、一定の成果を上げている人は、必ず自分と周囲が納得する、良い準備をしています。

もう一つ、彼女の言葉を紹介します。

目標に到達できない時こそ、『まだ何かできることがあるんだ』と思うんです。『どうやったら次の試合でもっといい滑りができるんだろう』と置いていけば、毎日、ちょっとずつ反省するポイントが見つかる。それを一つひとつクリアしていこうと取り組んでいる限り、モチベーションが急激に落ちることはありませんでした。ずっと、『まだ自分には発見していないことがある』ということを楽しんできたんだと思います。

最後に、私からみなさんにお礼があります。明日は、卒業証書授与式です。1年生と2年生は、明日一日、すべてを3年生、63名の卒業生のためだけを考えてほしいと思います。そして3年生は、卒業生として、お家の方々や、家族のために、また、指導をしてくださった先生方のためだけを考えて、自分自身の卒業証書授与式に臨んで欲しいと思います。

3年生。みなさんは、一年生の時に学年主任であり1年1組の学級担任であった五味大仁先生が急逝されるという大きな悲しみがありました。きっと明日の卒業証書授与式では、五味先生も天国から、みなさんの立派に成長した姿を見守ってくれていると思います。

私たち教職員も、気持ちを一つにして、卒業生のために立派な卒業証書授与式を作り出したいと思えます。

3学期、そして1年間本当にご苦労様でした。自分以外のすべての方々に感謝して、私の話を終わります。

お世話になりました ～本度転退職する教職員の紹介～

平成29年度末の人事異動で、以下の6名の教職員が転退職することとなりました。
東中学校保護者・地域の皆さまには常に温かいご支援をいただきました。

6名の先生方におきましては、勤務した期間に違いはありますが、東中学校の生徒のためにお力を尽くしてくださいました。本当にありがとうございました。

- 栗林 収一 (3年副担任・4組担任・美術)
→ 定年退職 (平成30年度は長野市立北部中学校に再任用)
- 山岸 光明 (管理技術員)
→ 定年退職 (平成30年度は本校に再任用)
- 竹内 尊子 (不登校等児童生徒支援員)
→ 退職 市支援員として須坂市立日野小学校へ
- 永泉 常雄 (3年副任・進路指導係・社会科)
→ 退職 長野俊英高等学校へ
- 綿田 久江 (事務主任)
→ 須坂市立常盤中学校へ
- 矢澤 憲 (3学年主任・英語)
→ 長野市立東北中学校へ

本日、男子28名、女子35名 計63名の卒業生が、東中学校を巣立っていきました。

この3年間をふり振り返り、中学校の3年間は生徒たちが、身も心も大きく成長するものと改めて感じさせられました。一人ひとりが大きく成長し、そして今、羽ばたいていきます。

保護者の皆様、そして地域の方々、1年間、本校の教育活動にご理解・ご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。

東中学校 校長 北村 雅